

大陸（北支）

支那事変

北支戦線に参加して

福井県 佐々木 與兵衛

私は大正六（一九一七）年三月十九日、福井県丹生郡朝日町朝日に生まれ、大正十二年四月一日、福井県丹生郡朝日町の尋常高等小学校に入學、昭和五（一九三〇）年三月、この高等小学校を卒業して同年四月一日、朝日町青年学校に入學、昭和八年三月朝日町青年学校を修了しました。

昭和十二年四月、徴兵検査で第二補充兵に合

格、昭和十三年九月四日、召集令状が来ました。父親が田圃に走って来て「動員だ！ 赤紙が来た」と言って持って来ましたので早速見ますと「昭和十三年九月十日に金沢輜重兵第九連隊へ入隊せよ」との令状でした。早速田圃より引き上げて家に帰り、親戚近所に知らせ、出征する準備にかかりました。姉二人が千人針の腹巻を作ってくれました。

入隊当日は金沢は家から遠いので、前日に金沢に行くことにしました。午前八時に区長さんをはじめ親類の方々や近所の人も一緒に当区の八幡様神社に必勝祈願をしました。それから区民の人は私鉄・鯖浦線の西田中駅まで見送りに来てくれました。また親類の人達は国鉄・鯖江駅まで見送っ

て下さいました。姉夫婦は父親と一緒に金沢の旅館に泊りました。

私は翌朝、輜重兵第九連隊営門前で待機、午前八時になって営門を入り、係員の上等兵に引率されて第一中隊第一班に配属されました。その日は班付の上等兵に寝具やその敷き方、衣類の整理整頓、たたみ方などを教わり、また夜の点呼等の仕方等を教わりました。班長は山口伍長でした。

翌日より徒歩訓練や駄馬に弾薬を積載する訓練が始まりました。それから間もなく昭和十三年十一月末に野戦行ぎが決まり、一日だけの外泊が認められ、家に帰りました。わずかの時間ではありましたが親、姉と懐かしく、いろいろと話しました。

本隊へ帰り、十一月二十七日には本隊出発、金沢駅より客車と貨車の混合の軍用列車で広島に到着、広島港より病院船に乗りました。五日間位の航海でしたが玄界灘を通過する時は、波が荒くて

船に酔い、大部分の人が食事せずでした。

中国のタークー（太沽）港に上陸しました。その時は初めての中国の何とも言えない匂いがしました。その時の隊員は五十人程でした。引率者は見習士官の曹長で、堀敬造さんと言いました。そこから列車に乗り石家荘に到着、梅津部隊原田部隊吉田隊へ配属になり南兵営へ到着しました。吉田隊は通過部隊の一時休養宿泊する南兵営の管理をしていました。電話当番や貨物廠の衛兵や、一カ所だけあるトーチカの警備にも行きました。

その後、昭和十四年十二月に古兵さん達が内地へ帰りましたので、残った私達五十人は松村部隊へ転属になりました。この松村部隊は小倉市の、野戦重砲兵第五連隊で編成された部隊で兵器廠です。私たち十人だけが銃器係に配属になりました。

仕事は中国人を毎日二十人ほど使って、銃剣や機関銃等の手入れをして格納庫に保管することでした。そして昭和十五年七月、上等兵に進級しま

した。

昭和十五年八月復員命令があり、石家荘から青海に行き、青海港で貨物船に乗船、玄界灘を通過して広島島の島で検疫を受けたのち広島港に上陸しました。そして小倉野戦重砲兵第五連隊に帰隊し、五日間ほど隊にいたと思います。その間に隊では国鉄の列車時刻を調べてくれて各自が帰郷の日時を家に知らせました。

国鉄の鯖江駅まで帰った時は、駅まで親類や近所の方々が多勢迎えに来ていました。また鯖浦線の西田中駅にも大勢の村人が迎えに来てくれました。その時は大変うれしかったです。

二度目の召集令状

昭和二十年三月四日に再び召集令状が来て、京都市伏見区藤の森小学校で編成する燕部隊へ入隊しました。隊長は中村大尉で、福知山の長田廠舎へ行く勤労奉仕隊の人達も沢山来ていました。飛

行場建設の土方仕事をする人たちです。

昭和二十年六月頃、和歌山の紀ノ川沿いに飛行場を建設することで、勤労奉仕隊の女子たちも来ていました。一緒になって飛行場建設をしていましたが、昭和二十年八月十五日に天皇陛下の玉音放送があると言うので、兵隊だけが紀ノ川の堤防の上に集結して天皇陛下の放送を聞き、早速作業は中止して、勤労奉仕団の人達には帰ってもらいました。

兵隊は隊に帰り、星のついている物や帽子の紋章、軍隊手帳などの焼却をしました。軍の土方用の器具は返納し、私物の整理をし、三日位たって砂糖少々、米少々、毛布三枚が支給され、それらを貰って帰りました。その時に福井市の人で本部にいた山下岩男少尉には色々心配して頂き、列車に乗り込み粉川駅を後にして福井県へ帰って参りましたが、この時は最初の復員の時とはまったく違ったものでした。

今度は誰も迎えに来てはいませんでした。翌

日、鯖江電鉄株式会社へ挨拶に行き、翌日から乗務区の電車運転士の工程表に入れてもらい勤務することになりました。

福武電気鉄道株式会社と鯖浦電気鉄道株式会社が合併して福井鉄道株式会社となり、乗務区も合併となりました。昭和四十五年三月には鯖浦線西田中駅長となりました。昭和四十七年十月には西田中駅と織田広線の間はバス運行となり、昭和四十八年十一月には鯖浦線全線がバス運行となりました。

そこで私は本社勤務となり、運転課に勤務、昭和四十九年三月、定年退職となりました。定年の日より十カ月は失業保険金が受給できないので、その間に運転免許を取得しました。

昭和五十三年一月より朝日町朝日区の区長となり、昭和五十三年四月より新設された朝日町老人会福祉センターの初代苑長となり、昭和六十一年四月には同福祉センターを退職しました。その間、脳卒中で倒れ、救急車で運ばれ入院しました

が軽くてすみ一カ月程で退院し現在に至っています。

今は家族は父、母、妻、長女、妹、そして私の計六人暮らしです。

支那事変の時に戴いた物は次のものです。

勲八等白色桐葉章 受賞（昭和十五年四月）

支那事変従軍記章 受賞（ 〃 ）

独立混成旅団（島兵団）

の一員として

富山県 山崎 芳二郎

私は島兵団、独立歩兵第七十四大隊、兵器係として、昭和十九（一九四四）年二月、編成替えの時に本部付となり、終戦まで北支那で勤務をした。

私は兵器の専門知識は全然無かった。兵器係の下士官は旅団命令で専門教育を受けていたが、私